

西光寺だより

第三十五号 平成二五年 七月一日発行

涼しげな風鈴の音が聞こえる季節となりました。日に日に暑くなつてまいります。夏ならではの過ごし方を楽しみたいものです。

東日本大震災による電力不足に陥つてから、エアコンに頼りきつていた日本人にも節電の意識が高まり、昔ながらの暑さを凌ぐ方法が見直されているようです。簾やよしずで日光を遮り、うちわで風をつくり、行水をして汗を洗い流す。なかでも朝夕にまく打ち水は、気温を下げるのに大変効果的だったようです。

「涼をとる」という言葉は、暑さをしのぐ意味だけでなく人々の生活の知恵によって涼しさを創り出すということも含まれているように感じます。そして、生活の知恵によって創られたものは、それぞれの季節ならではの風情があふれているようです。

風鈴の音もそのひとつですね。チリンチリンと風によって奏でられるその音は、暑さを一瞬忘れられる涼しさを運んでくれます。同時に「いま、ここ」を気づかせてくれる音でもあるのではないかと思えます。いま吹く風に揺られて響く音、その音色を聞いている私、どちらも「いま、ここ」に同時に存在しています。

最近では軒下に風鈴を吊るす家も少なくなつていますが、道すがらふと聞こえる風鈴の音を足をとめてみると、「いま、ここ」にある自分を感じることも出来るかもしれません。

今年の夏は、西光寺でも風鈴を吊るして風の響きを感じてみたいと思います。近くにお立ち寄りの際には、風鈴の音色に耳を澄ませてみてください。



◆七・八月の行事◆

・ 八月 十五日 (木)

孟蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂

●今月の言葉●

先月の西光寺だよりの●今月の言葉●は、「雅楽と本願寺」というテーマで載せさせていただきました。私たちの日常の中で何気なく使っている言葉の中に、その雅楽から派生したといわれるものがありますので、今月は「雅楽からきた言葉」として少し紹介させていただきますと思います。

・ 塩梅 (あんばい)

一般的には、料理での塩と梅酢の加減からきたといわれています。雅楽で古くから、箏の奏法に使われています。同じ孔(穴)の音でも、吹く息の量や唇の位置を加減する事で、近似する音程へ徐々に移行する一種のポリタメント。音程に幅が出せます。ゆっくりと慎重に音程を変更するところから、具合を測りつつ物事を進めるさまを表す。

この奏法を「塩梅」といい、雅楽用語では「えんばい」と読みます。

・ 野暮 (やば)

雅楽に使用される笙という楽器は十七本の竹管で出来ています。そのうちの十五本は音が鳴りますが、二本は鳴りません。しかし、今でも

取り除かれることなく楽器の一部分として残っています。この鳴らない二本の竹管名を「也」「毛」と言い、その「や」「もう」が少しずつなまり、変化して「やぼ」になり、無駄なことや、世情に疎く人情の機微を解さない事を言うようになり、「野暮」の当て字が用いられます。

・打ち合わせ（うちあわせ）

雅楽では合奏することを打楽器が定める拍節に合わせることから「打合せ」と言っていました。これが転じて物事がうまく運ぶ、ぴったり合うように、事前に相談する事を言うようになったと言われています。

・ろれつが回らない

雅楽の旋法には、「呂（ろ）」と「律（りつ）」というものがあり、それぞれの音階に基づいて演奏されます。その「呂」「律」の音階を間違えると訳のわからない曲になってしまうことから、「ろりつ」が変化して、この言葉ができ、言葉の調子（旋律）がうまくいかないことを言うようになったと言われています。

・楽屋（がくや）

雅楽では演奏する曲のことを「楽」と言います。そして舞楽の時、楽人が楽を演奏する場所を「楽屋」と言いました。この場所では舞人が装束を整えることも行われていました。

そして、役者などが衣装や化粧等の準備をする場所を言うようになったと言われています。

・調子（ちようし）

雅楽には《調子》と呼ばれる楽があります。古くはこの楽を奏している間に絃楽器は管楽器の音に合わせて絃を調絃しました。

これが転じて、相手と話を合わせてさからわれないことを言うようになります。

つたと言われます。

また物事がうまくいかないことを『調子が悪い』などと言います。

・頭取（とうどり）

頭取の語源は雅楽からきていると言われています。銀行のトップを頭取と呼びますが、これは雅楽演奏時における各楽器の首席奏者の呼び名「音頭」（おんどう）からきているようです。雅楽のほとんどの楽が笛の音頭より始められています。音頭はいわば、各楽器のリーダーとして「音頭を取る」という意味で、音頭取り：頭取：となったという説が有力だそうです。

・こつ

雅楽の笙は十七本の竹で組まれています。それぞれの竹には、金属の響銅（さはり）で作ったリードが付いていて、出る音にもそれぞれ固有の名前が付いています。「乞（こつ）」という音はとても出しにくい事から、その言葉が出たとも言われ、これが転じて、物事をする場合のくんどころ、要領と言う意味の言葉になったといわれています。

・千秋楽（せんしゅうらく）

雅楽の楽の中に《千秋楽》という曲があります。我が国でつくられた楽であり、仏教の法要の最後によく用いられた曲であり、舞楽法会など最後に演奏されることが多かったようでありました。

これが転じて、物事の終わり、芝居や相撲などの興行の最終日を言うようになったと言われています。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>